

令和2年度第1回子ども・子育て会議部会 会議録

日時

令和2年11月12日（木曜）10：00～11：30

場所

ZOOMアプリにてオンライン開催

出席委員

吉川部会長、中山委員、藪本委員、橋本委員、田中委員

欠席委員

なし

事務局

熊井子ども家庭部次長兼子ども家庭課長
青野子ども政策室長・倉本子ども家庭課主任主査
廣原子ども家庭課主査・北根子ども家庭課主事

議題

第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて

配布資料

- 資料1：令和2年度第2回子ども・子育て会議委員意見一覧
- 資料2：子ども・子育て会議部会における検討事項
- 資料3：個別施策のカテゴリー分け一覧
- 資料4：子育て支援施策に関するアンケート調査（平成28年度実施）

議事録（概要）

《事務局》

定刻となりましたので、只今から、令和2年度第1回流山市子ども・子育て会議部会を開催させていただきます。

10月20日に開催いたしました第2回審議会において、部会では子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて議題とする旨、了承がありましたのでよろしくお願いいたします。

部会長ですが、本会議において副会長である「吉川委員」にお願いしたいと思いますが、部会委員の皆様の了承をもって互選とさせていただきます。吉川委員を部会長としてよろしいでしょうか。

（各委員の了承を得る）

それでは、ここからの進行は部会長からお願いします。

《吉川部会長》

次第に従いまして、第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて、事務局から説明をお願いします。

《事務局》

資料1から4について説明。

資料1：令和2年度第2回子ども・子育て会議委員意見一覧

資料2：子ども・子育て会議部会における審議事項

資料3：個別施策のカテゴリー分け一覧

資料4：子育て支援施策に関するアンケート調査（平成28年度実施）

《吉川部会長》

ありがとうございました。事務局から説明があったとおり、この部会で計画の事業評価の見直しについて意見を集約し、第3回子ども・子育て会議に見直し案を示します。只今の説明について各委員からご質問・ご意見をお願いします。

《藪本委員》

何をもってA評価B評価のかというのは事業ごとに違ってくると思うのですが、これについてはどのタイミングで、どの項目でやられるのか教えていただきたいなと思います。

この総合計画における活動指標、成果指標というのは、これは全然、アウトカム、アウトプット評価でいいと思うのですが、例えば、手塚委員からのご指摘だ

と、何をもって評価の基準とか、各施策で設定すべき目標っていうものとその評価の考え方っていうのは違いますよね。これをどこの段階で整理をするのかというのが今回の審議事項、①から⑤の中でどこに当たるのか私の中で、理解できなかったのもので、それを説明いただきたいなと思いました。

なぜその事業についてその評価をするのか、その目標を設定するのかという話と、その目標に対しての妥当性というのはどうなのかという話と、それとその評価の基準をちゃんと作りましょうねっていう話が確か、我々の部会の方に託されている役割だと私は思っています。

この③のカテゴリー分けのところを考えるのか、④の評価指標の確認をするところを考えるのかがわからなかったため、このまま事務局の方でご用意いただいたこの流れで進めてしまうと、子ども・子育て会議の方で求めているようなものがないのではないかなというふうに危惧をしています。

《事務局》

ありがとうございます。例えば③のカテゴリー分けについては前回の会議の中で「相談」、「支援」というものは評価を行うが、参考数値とするもので評価対象を分けようとなったものです。④については次回部会の際に第2期計画を作成した際の事業評価内容を参考に、皆様からご意見をいただこうと思います。

《藪本委員》

ありがとうございます。④の次回の部会の段階で、ここの評価の中身の話で、例えば事業番号1「子育て及び家庭教育情報の提供」ところについて、活動指標というのはこういうふうな考え方で、こういう目標設定しましょうという話であったり、成果指標というのはこういうものだよということの一つずつ見ていくという認識でいいですか。

《事務局》

藪本委員がおっしゃっていただいた通りです。①で事業評価の実施のタイミングにおいて、毎年全事業評価していることではありません。まずどの事業を評価していくか分けていくことが必要です。

今回の審議事項は①②③となります。最初に説明させていただいた、評価の基準や各課の評価指標をいつのタイミングで皆さんにご覧いただいてご審議いただくかっていうのは、④の内容になります。

前回の子ども・子育て会議の資料において、②の事業の振り分けに当たるものが、この「普及・啓発」とか「整備」「支援」「相談」「連携」「給付・補助」と出ているものになります。このうち、「相談」「連携」「給付・補助」ということで、

「相談・連携」でしたら、多ければ多い方がいいとか、各種手当は人口によって増えたりとか、あるいは「補助」事業は受給団体によって増加します。全 130 ある事業のうち、「相談」「連携」「給付・補助」は、評価はできなくはないのですが、果たして毎回やる必要があるのかどうなのかという疑問がありました。そこで、「普及・啓発」「整備」「支援」の評価に絞るということでカテゴリ分けを行いました。

そのカテゴリ分けを今回した上で、さらにどんな事業を評価しようかという形になります。資料 2 ①における重点事業っていうのは第二期計画の重点事業で毎年度評価を実施します。③の個別事業のカテゴリ分けによって、130 事業の評価を実施するのですが、「相談」「給付」事業については事業実績は数字で出すけれども、除いた状態で審議いただきたいと思います。

①の事業評価の実施タイミングについて、計画見直しの時に全事業、令和 6 年の最後の次期計画を策定する時に全事業、その間について重点事業 + α について評価を行っても問題ないか審議いただきます。ご了承いただけるのであれば、②も + α の事業について重点事業だけではカバーしきれないような事業を、皆様にご意見をいただきたいです。+ α の事業については、個別事業を挙げていただいてもいいですが、全体を見ていただいた中で、例えば障害に関する事業で、安全対策に資する事業、こういった事業も行った方がいいんじゃないかというご意見だけでもいただければ、事務局の方で、次回、こういった事業があるということをも案を提示したいと思っております。

③の個別のカテゴリ分けについては、先ほどの通り、「相談」「支援」「整備」の三つのカテゴリ分けを重点的に見ていただきたい。次回④の成果指標の確認ということでカテゴリ分けした事業について、各担当課が、第二期計画策定時の事業評価を出させていただいて、それについて、皆様からご意見をいただきます。実際の評価については、今年度末から来年度の頭にかけて行いますので、その時の各課の評価指標入れるにあたっての皆様のご意見を各担当課にフィードバックさせていただきたいと思います。④、⑤に対して、本日はその前段のさばきという部分で、皆様にご認識いただければと考えております。

《藪本委員》

それに絡んで改めて質問なのですが、130 事業を、こういう形で、評価をしていくにあたって、ピックアップをしたものしか毎年やりませんよという意味で重点事業という表現で表記されていますが、実際それはどうなんですかね。毎年できない、やらない理由って何なんだろうっていうのが素朴な質問としてあるんですけど。

別に毎年、件数をかけるものでもないし、傾向さえ把握していればいいという

事業もありますが、それも含めて毎年事業評価をしてはどうでしょうか。皆様のご意見を聞きたいです。

《橋本委員》

毎年事業評価をやらないとしても、数字だけは出るんですよ。今回、黄色で網掛けしてない部分についても、来年度頭には、結果として数字は出るということですよね。

《事務局》

各事業担当課の成果指標の設定の仕方にもよるのですが、基本的には毎年数字や、定性評価、定量評価どちらかは出ます。定量評価についてはアンケートや、毎年度の利用者数を集計していきます。各事業担当課で中には隔年で行っているところもあるかと思います。

定性評価という部分で言えば、各担当課が事業を所管していく上での事業がありますので、そういった意味では毎年評価することは可能ではあります。

《橋本委員》

その時に異常値が出れば、それをマークするという手はありますよね。その意味では全く1年間触らないということではなくて、数値を少なくとも、みることはできる。そして、異常値出たことについて指摘することができるという環境にはなっていますよね。

《事務局》

今回③番で、個別のカテゴリ分けがありますので、カテゴリ分けについて、児童手当が幾ら増えたとかいったというものは参考値としてはあるが、意見をいうほどのことでもないということでしたら、毎年評価をやってはどうかという議論もありますので、130事業のうちカテゴリ分けによってご審議いただく事業というのは絞られます。

《田中委員》

審議するのは重点事業+ α ということですが、それ以外の全事業の資料を確認することは出来るのでしょうか。全体の評価資料を見て、これについて話したいというのは、今決めなきゃいけないのか、それともそのときに決められるものなのかどうか、どうですかね。

《事務局》

各事業担当課に照会をかけて、内部的に取りまとめるという作業になります。

全事業を確認したいということについては、検討いたします。

《田中委員》

どれが重要でないかというのは、各課の評価みたいなところを全部見て、大事か大事でないか判断するところだと思います。

《橋本委員》

それは当然だと思います。全体を見た上でないと、異常値どうかわからないですよね。通読した上で、これはちょっとどうなのかというのが、ピックアップされるものですから、全体 130 事業についてこの会議の中で開示していただければと思います。

《吉川部会長》

そういう意見ですので事務局の方で、その方向で対応していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

《事務局》

わかりました。

《田中委員》

例えば、令和3年の部分は、重点事業+ α って書いてあるのですが、来年は全事業の評価を実施して、それを見た上で、毎年実施するのか隔年で評価を実施するのか審議できると思います。

《吉川部会長》

他の委員の方も皆さんその考えでよろしいですか。

(各委員了承の声)

《吉川部会長》

来年の評価の時には全事業について何らかの指標を見させていただくということで、その時に、こちらが気付いてない問題点が拾えるかもしれません。その時にはまたそれで考えていきたいと思いますので、事務局の方にはお手数ですが、ちょっと頑張ってくださいと思います。

では、引き続き130事業の評価はそのような形で進めさせていただくと、次よろしいでしょうか。

《事務局》

もう一つアウトカム評価については評価してみないと、わからないというところがあるので、令和4年と令和6年の2回実施という形でよろしいでしょうか。

《吉川部会長》

委員の皆様いかがでしょうか。

(各委員了承の声)

アウトカム評価については、令和4年と令和6年で実施させていただくというところでお願いしたいと思います。

《事務局》

②については、田中委員を初めとして皆様から、アウトプット評価について来年度は一度全事業評価を実施するというので意見をいただきましたので、評価対象事業を絞る必要が無くなりました。そのうえで皆様が特に気になっている分野などのご意見いただきたいと思います。

《吉川部会長》

では、今の事務局のお話を受けて、何かありましたらお願いします。

《橋本委員》

事業番号130の子供の貧困対策について。事務局からお話の中で、全事業対象ということで一定の評価が出るということであればその中で聞かせていただきたいと思います。

それからもう1点は、いじめ対策の関係です。これが、こういう対策を打って相談件数もゼロであったということが、最終的にわかるような形を見ることができればというふうに思います。それは一つ何か工夫していただだけませんか。事務局の方ではそのように、担当課の方に働きかけていただくことは可能でしょうか。

《事務局》

承知しました。

《藪本委員》

私は何点かあるのですが、かねてから子ども・子育て会議の中で、議題として上がり、結構棚上げになってきているものとして、情報を必要な人に届けていく

やり方、情報開示だとか、その情報共有だとか、市民に対する情報提供というところについて、重点的にというか目標指標の設定の中でも、もう少し明確にしたほうが良いと感じています。

2点目については保育や学童について、その質に対しての目標の設定の仕方だとかを見ていくことがすごく大事かなと思っています。今、量については追っているところがあるので、それぞれ質の方に目を向けてもらいたいというところが私の気持ちとしてあります。

3点目がそれに絡んでですが、多様な子供の居場所という意味で、例えば、いじめの話の不登校の方の思いもありますし、あともう一つ乳幼児のところで障害児に対してのその手当という部分が、盛り込んでもらいたいなと思っています。

《中山委員》

事業番号17療育施設について、障害のある児童の自立支援のため、児童発達支援センターの充実を図りますとありますが、発達遅れの子供たちが入りたいが、人数が多すぎて入れませんとか断られてしまうお子さんがいるのはたくさん聞いています。増員できるような環境を作っていただけるとか、電話しても相談できるのは3ヶ月待ちということがあります。もっと早く対応していただけるような体制をとっていただけると、すごいありがたいと思います。

6ページの事業番号52相談カウンセリングについて、いろいろ問題を持っているお子さんについてカウンセリングを受けられるのですが、うまく市の方からカウンセリングした時にここの病院にというような、そこまで紹介していただけるようなシステムをとってくださると、障害を持っているお母さんたちはすごく安心していけるのではないかなと思います。それをうまく何かこの中で組み込めていけたらいいと思います。

《田中委員》

資料1の各委員の意見一覧のところでも市の事業なので、市の評価しかやらないっていうのはわかるのですが、前回の審議会で私は、市の事業ではないのに、例えば、子供食堂の団体数が入ってたりとかというのはちょっとおかしいのではないかということを行いました。

市の事業を評価するので、事業の切れ目が出てきます。その切れ目の部分を、例えば、おやこ劇場さんとか、なこっこが担っている部分もあるので、そういうのも市の事業ではやっていないけれども、市民活動ではこういうのがありますよみたいなどころまで、網羅できるといいと思います。

《吉川部会長》

田中委員が言っていたのは、市では、ここまでしかできてないけども、他の市民活動団体とかで、いろいろここまでこういうフォローができますよっていうような情報を、市民の方に届けられる状況でしておきたいということですよ。

《田中委員》

そうですね。

《吉川部会長》

行政で隙間が生まれているところを市民団体がフォローして、ある意味協働ではないけども、協働の立場でやっているということ、市民の皆さんにお伝えできる体制を取りたいということだと思います。

《田中委員》

市の支援で担えない部分を、市民団体が実施していてそういった情報が、あるといいなということですね。それをどう評価するかとなると難しいのですが、この計画には反映できないと思うので、例えば流山子育てガイドブックとか、私たちとか市民活動団体の名前が入っていて、ここはこういう活動してますよみたいなことをやっていたら、市民活動の子育て団体の情報提供をしているというところに、評価をすることができるのではないかと思います。

《吉川部会長》

私個人の考えとしては市が一生懸命やってくださっていることに、同じような立場で頑張ろうとしている市民活動団体がいろいろあると思うのですが、いろんな団体の活動内容を担当課さんたちが把握していないことが結構多いと思うので、その点を理解した上で活動していただけるとありがたいです。

《事務局》

130事業からさらにカテゴリ分けて、皆さんにご意見いただきたい、ご審議いただきたいというところを抜き出したいなと思っておりますがその辺についてはいかがでしょうか。

具体的な例でいうと同様の児童手当についての話がありましたけれども、子供が増えれば受給者数が増える事業です。そういったものは除いても問題ないでしょうか。

《吉川部会長》

要は評価項目から「相談」「連携」「給付・補助」に関わるところは省いた上で、「普及・啓発」「整備」「支援」に関わるところを重点的に審議するっていう方向性でいいかどうかということです。

《中山委員》

最初の議論で全事業評価を実施するというようになりましたが、別に議論してもしょうがないみたいな事業もあるとは思いますが。評価を割愛する部分を事務局から示して一覧にさせていただけるといいと思います。

《橋本委員》

次回の12月の部会の際に、審議事項④は相当時間かかります。事前作業もかなり大きなものになると思うのですが、できるだけ早く、資料を提供してもらいたいです。そういう意味では、資料の作成とその辺のところを、工夫していただければというのが私の希望でございます。

《事務局》

橋本委員ありがとうございます。橋本委員から今いただいたご意見としては、130事業を事前資料としてお出しするところはおっしゃる通りです。その130を全部評価するというよりは、事務局が案をお示しさせていただきます。

《橋本委員》

評価軸と評価指標は、130事業に対して、すべて出てくるのでしょうか。

《事務局》

今回の会議においては、第二期計画が作られた時に設定した指標を用いてご意見いただく形になります。その指標についてご意見をいただいて、前回審議会で本委員からいただいた、改めて指標を設定し直すことはあり得るのですかとご意見いただいた中で、皆様からご意見いただいたものを、来年に担当課の方にフィードバックをして、それについて改めて設定をし直すほうがいいのか、あるいは、今の状態でプラスアルファで何か付け加えたほうがいいか。そうした面から皆様から背中を押していただければと思います。これについてはどういう根拠なのか、これについてはちょっと違うのではないかというご意見をこちらで受けて、それを担当課の方にフィードバックいたします。

《藪本委員》

カテゴリー分けのところの話に戻りますが、「相談」事業を外すことに私は反対です。先ほどから話が出ているように、それはもちろんアウトカム評価に近いところがもしかしたらあるのかもしれませんが、中山委員からもお話があったように相談したい方ができていないという状態をきっちりと把握し続けることはもうすごく大事だと思います。

どのような人が本来やりたかったのにできなかったのかというところをちゃんと、把握し続けることは大事だと思います。「給付・補助」とか「連携」は、確かに定点的に見てある程度見て中期的に見たらいいかなと思います。相談だけは、「普及・啓発」「整備」「支援」事業と同じレベル感かなと思っていますので、ご検討いただきたいと思います。

《事務局》

藪本委員ありがとうございます。「相談」については、今おっしゃっていた通り、アウトカムの評価の中で、相談をして、それについての満足度という部分で、市の方に、成果がおりてくるということがあります。数という面でいえば、多ければ多いほうがいい形になるので、そういう視点から今回カテゴリー分けさせていただきました。

実際毎年どのように評価するかということは、数の部分と、あと満足度という視点がありますが、その満足度という部分が、指標が設定できるかというところと明確としたものは難しいと感じています。そういったことから、アウトカム評価でフィードバックをもらう形で考えているのですがいかがでしょうか。

《藪本委員》

結局その相談に来た結果がアウトカム評価にあたると思います。そもそも相談に行けないという視点が抜け落ちています。ここの部分が僕は大事だと思っています。来るまでの話も何かしらの指標として入れて、それが毎年の定点評価になるかどうかというのもわかります。

私個人の強い思いとして、何かしらの形でチェックをしていくことが大事かなと思っていますので、検討いただきたいです。相談の中でも、その中で評価にそぐう事業もあるかもしれませんが、相談カテゴリーの中でさらに分類してもいいのかもしれないです。

《事務局》

藪本委員ありがとうございます。検討いたします。先ほど中山委員からご意見をいただいた、実務的な話で相談がなかなか動いていないとか、情報が届かないと

か、評価に入れるかどうかというのは、この時点ではなかなか担当課の意見がないので、ご意見があったことを伝えたいと思います。

《吉川部会長》

事務局の方から、今の段階で、議論部分はありますか。

《事務局》

①については令和3年度の評価について、全事業評価をしてみてから皆様にご審議いただきます。そのご審議の中で、令和4年度以降を果たして毎年必要なんだろうかということも議論すると事務局としては理解をいたしました。

②につきましては、来年度評価対象事業の選定というところは先ほどの①で全事業評価を行うということで、理解いたしました。

③については、藪本委員の方から、相談のについて加えたほうがよいという意見がありますので、検討いたします。

次回の部会が④番の評価指標の確認ということになりますので第2期計画の事業評価内容について、皆様の方に資料をお送りできるようにいたします。この部会で、基本的には担当課に後押しというか、よりこうした方がいいという部分でのご意見を承ればよいと考えています。

《吉川部会長》

次回の部会について事務局から何か連絡があればお願いします。

《事務局》

次回の開催日について12月22日もしくは23日で調整させていただきたいと考えています。

《吉川部会長》

今日はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。